

# 日本薬剤学会 (APSTJ) ニュース

10

## 薬剤学教育に対する学会の取り組み

日本薬剤学会の分科会の1つである「教育分科会(代表世話人=昭和薬科大学・渡辺善照氏)」が中心となり、薬剤学・製剤学教育の充実に向けた議論を展開している。薬学教育6年制の移行に伴い今後ますます重要性が高まる薬剤学・製剤学をいかに薬学生に教育していくかの検討は同学会としても重要課題である。

日本薬剤学会会長の橋田充氏は、「薬学6年制教育の教育内容は、モデル・コアカリキュラムとして提案されているが、その内容は薬剤学の基本的な知識や技能であり、薬学生が学ぶべき薬剤学教育全体のおおよそ7割に相当するとされている。残りの部分は各大学の教学理念や育成する人材像に応じてそれぞれ特徴ある教育カリキュラムを定めることになっているが、特にこの3割の部分をいかに充実させるか、方向性、選択肢を整理し学会として提言していきたい」と語る。

### 薬学教育モデル・コアカリキュラムの中の薬剤学・製剤学の位置づけ

薬学教育モデル・コアカリキュラムとは、学問の進歩やそれに伴う変化に対応できる人材の育成に必要な薬学教育環境を整えるため、薬学系46大学の最終的同意を経て、平成14年9月に日本薬学会が制定した薬学部で学ぶべき学習項目のリストである。

コアカリキュラムの構成は「A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ」「B イントロダクション」「C 薬学専門教育」の3分野に大別されている。「C」は、物理系薬学を学ぶC1～C3、化学系薬学を学ぶC4～C7、生物系薬学を学ぶC8～C10、健康と環境を学ぶC11～C12、薬と疾病を学ぶC13～C15、そして、「医薬品をつくる」を学ぶC16～C17、薬学と社会を学ぶC18の18項目に細分されている。

薬剤学と密接な関係にある「医薬品をつくる」項目の

内容として、C16には「製剤化のサイエンス」として①製剤材料の性質、②剤形をつくる、③DDSが設定されている。またC17には「医薬品の開発と生産」として①医薬品開発と生産のながれ、②リード化合物の創製と最適化、③バイオ医薬品とゲノム情報、④治験、⑤バイオスタティスティクスを含んでいる。

「コアカリキュラムでも医薬品を製造するための基礎知識が学べるように設定されているが、薬学出身者、薬剤師が総括製造販売責任者に代表されるような職種として、医薬品の開発、生産、品質管理の業務で力を発揮するためには、製薬産業界等の意見も十分組み込んで大学での薬剤学教育を強化する必要がある。またジェネリック医薬品やスイッチOTCの普及に向けた動きが行政側をはじめ各方面でみられるが、これを扱う医療現場の薬剤師はその品質、製剤技術や機能性を自分で見極める必要がある。その意味でも薬剤学、製剤学等の知識は重要」と橋田氏は語る。

### 教育分科会で薬剤学教育の質向上を議論

日本薬剤学会はこれらの動きも背景に、平成19年度日本薬剤学会総会で新たに教育分科会を発足させた。

「新しい薬学教育システムにおいて、専門教育科目として重要な薬剤学の質を向上させるために学会として議論の場を持つことは時機を得たものといえる。薬剤師国家試験問題の検討等を中心に活動している教科検討委員会等の各種の会議との連携をとりながら、これからの薬剤学教育の改善に向けてたたき台を作成し、また国レベルの議論にも提言などを行っていきたい」(橋田氏)。

来年5月に札幌市で開催予定の日本薬剤学会第23年會でも、教育分科会シンポジウムや薬剤学教員會議を開催し、薬剤学教育のあり方などを議論する予定であるという。